



## 今月新しく入りました。

### ●一般の本

／兼好さんの遺言（作＝清川 妙）／信玄の軍配者（作＝富樫倫太郎）／しょうがない人（作＝平安寿子）／ジュージュ（作＝よしもとばなな）／光あれ（作＝馳 星周）／海松（みる）（作＝稲葉真弓）／我が家の問題（作＝奥田英朗）／虹の岬の喫茶店（作＝森沢明夫）

### ●子どもの本

／いちご電鉄ケーキ線（作＝二見正直）／ほげちゃん（作＝やぎ たみこ）／うふふ森のあららちゃん（作＝麻生かづこ）／ポケットのなかで…（作＝鈴木ひとみ）／かくれんぼだーれだ？（作＝こうだてつひろ）／ミス先生とふしぎな本（作＝マイケル・ガーランド）／くまのオットーとえほんのおうち（作＝ケイティ・クレミンソン）

## 中でもこの本が **オススメ** です。

### 紅梅

作＝津村節子



癌が発見され臓腑全摘の手術後、夫婦水入らずの平穏な日々が訪れるも、癌は転移し、夫は自らの死が近づいていることを強く意識する。一方で、締め切りを抱え満足に看病ができない妻は、自分を責める。そしてある晩自宅のベッドで、夫は思いもよらない行動を起こす。作家吉村昭の闘病と死を、妻と作家両方の目から見つめ、純文学に昇華させた衝撃作。

### オトタケ先生の3つの授業

作＝乙武洋匡



『五体不満足』の乙武さんは2010年3月までの3年間、東京都内の小学校で、先生として教壇に立っていました。この本は、乙武さんが教室で実際に行った、乙武さんならではの授業を、楽しい読み物にしたものです。「星に願いを」「心のバリアフリー」「犬のキモチ」の3話。



### 布のいのち

作＝堀切辰一

**古** い普段着や野良着には、今の時代には、失われてしまった心、現代最も必要とされているものが、その隅々に迄あふれていることを知ってもらいたい、作者は言う。百枚以上の当て布がある作業着、山本作兵衛氏の「炭坑（ヤマ）にいき

る」にも描いてある、女炭坑夫のまぶこや頭にかぶる手拭の事、中でも妓楼に売られた人の持ついたはなんてんの話は、私には想像もつかない妻まじい人生が残されていて、重く心に残る一冊です。



### あたまにつまった石ころが

作＝キャロル・オーティス・ハースト

**お** とになんたり何に聞かれました。いつも答えては、おなじ、「なにか石に関係のある事がある事」。石が好きで、大人になっても「あいつは、ポケットにも頭の中にも石ころがつまってるのさ」と、まわりの人たちは言いました。たしかにそうなのかもしれない。年をとっても働きの大学に通い、一つの事に熱心に取り組み勉強し続けた一人の父親の話を、あたまの中に本がつまった、その方の娘さんが書かれた絵本です。

春の桜、夏の海、秋の紅葉、冬の雪…。美しい四季が体感できるのは日本人の特権。そんな私たちがだからこそ、読みたくなる「旬」の本があります。シリーズ「旬の本だな」。11月は「ひとつの事にこだわり、長く続ける」をテーマに2冊の本をご紹介します。紹介者は友枝欣子さん（鞍手町文庫連絡会）です。



Dr. 山下の

## 調子はいかが？

町立病院 ☎42局1231番

町立病院スタッフ  
からの健康  
アドバイスです



町立病院に新しい医療機械が入ったと聞きましたが、どういったものですか？ (62歳・女性)

### 【最新のCT装置が導入】

近年、放射線撮影装置であるCT装置はその性能をめぐりしく発展させ、多検出器型CT(MDCT)が導入されるようになり、これにより心臓の冠動脈をかなり詳細に描出することができるようになりました。今回、町立病院に最新型のCT装置が導入されました。1回転27秒+128スライスという、現在CT装置の中でも最速で先進的な機器であり、今までできなかった心臓検査をはじめ、これまで以上に診療に有効な検査及び画像を提供できる機器です。



### 【入院することなく検査可能】

日本人の心血管疾患による死亡は、悪性腫瘍の次に大きな原因の一つとなっています。

高齢者での狭心症や心筋梗塞が多くなっています。逆に食生活の欧米化に伴い若年者での狭心症、心筋梗塞も多くなっているといわれています。

狭心症や心筋梗塞といった虚血性心疾患とは、心臓に栄養をおくる冠動脈という血管が動脈硬化をきたし、狭くなったり閉塞したりすることによっておこる疾患で、左前胸部が重苦しくなったり、激しい痛みが出現したりします。

虚血性心疾患が疑われる患者さんが受診した場合、心電図や胸部レントゲン、心エコー検査を行った後、運動負荷心電図などの負荷試験を行うことがあります。これらの検査は「非侵襲的な検査」といわれます。これらの検査や問診で疑わしい場合は、冠動脈造影検査を行います。

冠動脈造影検査を行います。冠動脈造影検査は、通常は入院を必要とし、手や足の動脈を通してカテーテルを挿入していく検査であり「侵襲的な検査」といわれます。現在では非常に安全にできる検査になってきていますが、稀に死亡につながる合併症が起こりうる検査になります。

町立病院では、最新の造影剤を用いることによる冠動脈造影検査(CTCA)が行われるようになりました。冠動脈CTとも呼ばれるこの検査は、冠動脈の狭窄やプラークの性状診断に優れ、従来心臓カテーテル検査だけでは知り得なかった冠動脈の異常を、入院することなく、外来で腕の静脈から造影剤を注入することにより、外来検査として検出可能なものになりました。冠動脈疾患の診断に従来の冠

動脈造影の代替検査としての役割が期待されます。

### 【負担の少ない検査に期待】

様々な医療技術は、より低侵襲の方向へ発展していきまますので、MDCTも今後ますます発展していくことと思えます。心電図や胸部レントゲン検査のようなスクリーニング検査とはいかず、適応症例を検討する必要がありますが、低侵襲の検査ということで患者さんにとって負担(精神的、肉体的、経済的)の少ない検査です。今後も症例が増えていくことと思います。

最近胸の調子が...と思われる場合は、ぜひ一度循環器内科外来を受診してください。

最新のCTが導入されました。今までできなかった心臓検査をはじめ、これまで以上に診療に有効な検査及び画像を提供できる機器です。



### 【アドバイザー】

山下和仁さん・やましたかずひと・平成2年産業医科大学医学部を卒業後、九州労災病院、岩手労災病院などを経てマイアミ大学に留学。帰国後は、産業医科大学病院などを経て、平成20年6月から鞍手町立病院循環器内科に勤務。46歳。

次回12月号では、さらに専門的に説明をします。